

8-2 その他の調査

(1) 調査参加機関

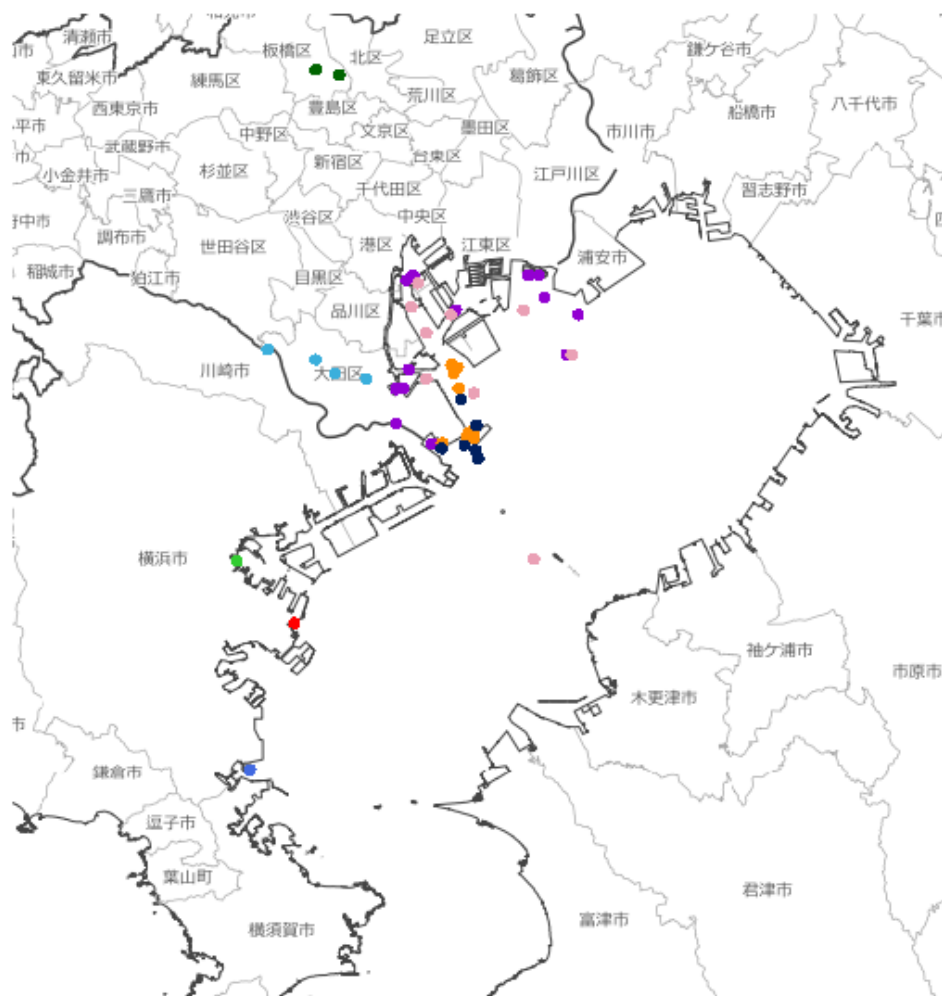
令和5年度は、7団体から干潟以外（河川、沖合など）の生物・プランクトン調査について報告がありました（表8-4）。

表 8-4 その他の調査の実施実績（実施日順）

報告書 番号	実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
①	東京都大田区	①田園調布（多摩川） ②呑川中流域 ③呑川上流域 ④内川（四之橋～諏訪橋）	①6月7日 8月2日 ②6月6日 8月3日 ③6月7日 8月3日 ④6月6日 8月3日	魚類、底生生物
②	東京都環境局自然環境部水環境課	東京湾内	①7月25日 8月1日 8月2日 8月9日 ②8月1日 ③9月7日 ④8月3日 ⑤8月30日 9月6日	①プランクトン ②稚魚 ③成魚 ④鳥類 ⑤底生生物
③	関東地方整備局 京浜港湾事務所	横浜港本牧沖	7月26日～ 28日	海藻類、魚類及び着生生物等
④	東京都板橋区	石神井川	7月31日	魚類、底生動物
⑤	国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所	東京湾内	①8月2日 8月29日～ 8月31日 8月4日 ②8月7日	①浅場に生息する水生生物 ②海底に生息する底生生物
⑥	横浜・八景島シーパラダイス	横浜市海の公園	8月2日	魚類
⑦	関東地方整備局港湾空港部	臨海パーク	8月21日	東京湾に生息する水生生物

(2) 調査実施地点

調査は、図 8-4 に示す地点で実施されました。



出典：海洋状況表示システム(<https://www.nsl.jp>)、国土地理院 [ref]

●	東京都大田区 (圃田川)、香川中流域、香川上流域、内川 (圃田川~圃田川) (観音寺等①)
●	東京都環境局自然環境水環境課 (東京都内湾部、多摩部、千代部) (観音寺等②)
●	東京都環境局自然環境水環境課 (アラクシオン調査) (観音寺等③)
●	関東地方整備局 京浜臨海事務所 (京浜臨海センター) (観音寺等④)
●	東京都板橋区 (石神井川 (久保田橋、神橋)) (観音寺等⑤)
●	国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 (海老原水生動) (観音寺等⑥)
●	国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 (浅瀬水生動) (観音寺等⑦)
●	横浜・入景島シーパラダイス (横浜市海の公園) (観音寺等⑧)
●	国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 (横浜市臨海パーク) (観音寺等⑨)

図 8-4 その他の調査の実施地点

(3) 干潟以外の調査の結果

干潟以外の調査について、報告された結果の概要は以下のとおり。

- ①大田区が行った多摩川や内川等における調査では、マハゼやオイカワ等が多く観測された。

- ②東京都が行った東京都内湾部、浅海部、干潟部における調査において、お台場海浜公園でハゼ科仔魚が多く確認されたほか、初めてカワハギが確認された。
成魚調査及び底生生物調査の海域は貧酸素状態であった。一方、成魚調査の全調査地点で生きているホンビノスガイが確認された。
またプランクトン調査において、赤潮調査では*Thalassiosira* spp.や*Thalassiosiraceae*が多く確認され、水質調査では*Skeletonema costatum*や*Cryptomonadaceae*、*Thalassiosira binata*が多く確認された。
- ③国交省関東地方整備局が行った横浜港本牧沖の調査では、シロボヤやイワフジツボ等が確認された。
- ④板橋区が石神井川で行った調査では、これまでの調査で確認された種類の変化と個体数の増減が確認された。ゲリラ豪雨等の急激な増水等により、魚類が下流に押し流されたり、上流から流されてきたりしたことが原因と考えられた。
- ⑤国交省関東地方整備局が羽田空港付近で行った底生生物調査では、ヒゲスピオ、シノブハネエラスピオ（環形動物門）等が確認された。
- ⑥横浜・八景島シーパラダイスが行った海の公園のアマモ場の調査では、ニクハゼやアミメハギが多く確認された。
- ⑦国交省関東地方政局が行った臨港パークにおける水生生物調査では、カンザシゴカイやイトマキヒトデなどが確認された。

(4) 各調査のレポート

各調査のレポートを紹介します。

生物調査（干潟以外）のレポート①

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
東京都大田区	①田園調布（多摩川） ②呑川中流域 ③呑川上流域 ④内川（四之橋～諏訪橋）	①6月7日 8月2日 ②6月6日 8月3日 ③6月7日 8月3日 ④6月6日 8月3日	魚類、底生生物

生物調査の結果①

団体名	東京都 大田区	
調査地点名	田園調布（多摩川）	
位置座標 (可能であれば)	緯度	N35°35'23.4"
	経度	E139°39'45.7"
実施年月日	令和5年6月7日、8月2日	

	種名（和名）	発見された数		種名（和名）	発見された数
	魚類	フナ属		1	底生生物
オイカワ		29	モノアラガイ科	1	
マルタ		1	ドブシジミ科	1	
ウグイ属		5	ミズミミズ科	2	
タモロコ		3	イシビル科	29	
カマツカ類		3	シマイシビル	10	
ニゴイ属		11	ミズムシ（甲）	2	
ヒガシシマドジョウ		3	カワリヌマエビ属	70	
アユ		4	テナガエビ	4	
ボラ		6	スジエビ	1	
コクチバス		1	アメリカザリガニ	2	
マハゼ		3	モクズガニ	9	

	ヌマチチブ	18		コカゲロウ科	32
	ゴクラクハゼ	1		サナエトンボ科	1
	ウキゴリ	18		コヤマトンボ	1
				トンボ科	1
				シオカラトンボ	1
				チビミズムシ	100
				チビミズムシ属	100
				シマトビケラ科	10
				コガタシマトビケラ属	3
				ニンギョウトビケラ科	1
				ユスリカ科	10

生物調査の結果②

団体名	東京都大田区	
調査地点名	呑川中流域	
位置座標 (可能であれば)	緯度	N35°34'32.1"
	経度	E139°42'31.0"
実施年月日	令和5年6月6日、8月3日	

魚類	種名 (和名)	発見された数	底生生物	種名 (和名)	発見された数
		コイ (型不明)		6	
	ウグイ属	51		サカマキガイ	1
	マルタ	10		ミズミミズ科	36
	ボラ	8		イシビル科	8
	マハゼ	3		アメンボ	3
	ビリンゴ	1		ユスリカ科	26
	ウキゴリ属	1			

生物調査の結果③

団体名	東京都大田区	
調査地点名	呑川上流域	
位置座標 (可能であれば)	緯度	N35°35'04.9"
	経度	E139°41'49.1"
実施年月日	令和5年6月7日、8月3日	

魚類	種名 (和名)	発見された数	底生生物	種名 (和名)	発見された数
		アユ		12	
	ボラ	2		モノアラガイ科	1
	ヌマチチブ	1		ヒメモノアラガイ	3
	スミウキゴリ	22		サカマキガイ	1
				ミズミミズ科	20
				イシビル科	2
				カワリヌマエビ属	3
				モクズガニ	2
				コカゲロウ科	8
				アメンボ	2
				ユスリカ科	13
				アシマダラブユ属	4

生物調査の結果④

団体名	東京都大田区	
調査地点名	内川（四之橋～諏訪橋）	
位置座標 (可能であれば)	緯度	N35°34'30.7"
	経度	E139°43'49.3"
実施年月日	令和5年6月6日、8月3日	

	種名（和名）	発見された数		種名（和名）	発見された数
	魚類	ウグイ属		1	底生生物
ボラ		14	マガキ	200	
スズキ		6	ウネナシトマヤガイ	1	
キチヌ		3	カワゴカイ属	5	
マハゼ		121	イトゴカイ科	1	
アベハゼ		1	カンザシゴカイ科	2	
ウロハゼ		1	ヨーロッパフジツボ	10	
チチブ		15	シロスジフジツボ	10	
ドロメ		4	ユンボソコエビ科	50	
				コツブムシ科	
			キタフナムシ	102	
			ミズミミズ科	1	
			フジツボ科	100	
			テナガエビ	1	
			シラタエビ	2	
			ヨコエビ目	3	
			スジエビ属	3	
			チチュウカイミドリガニ	3	
			クロベンケイガニ	45	
			イソガニ	1	
			タカノケフサイソガニ	3	
			アシハラガニ	1	
			ヤマトオサガニ	5	
			ユスリカ科	2	

生物調査（干潟以外）のレポート②

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
東京都環境局自然環境部水環境課	東京湾内	①7月25日	①プランクトン ②稚魚 ③成魚 ④鳥類 ⑤底生生物
		8月1日	
		8月2日	
		8月9日	
		②8月1日	
		③9月7日	
		④8月3日	
		⑤8月30日	
		9月6日	

プランクトン調査結果

東京都環境局自然環境部水環境課

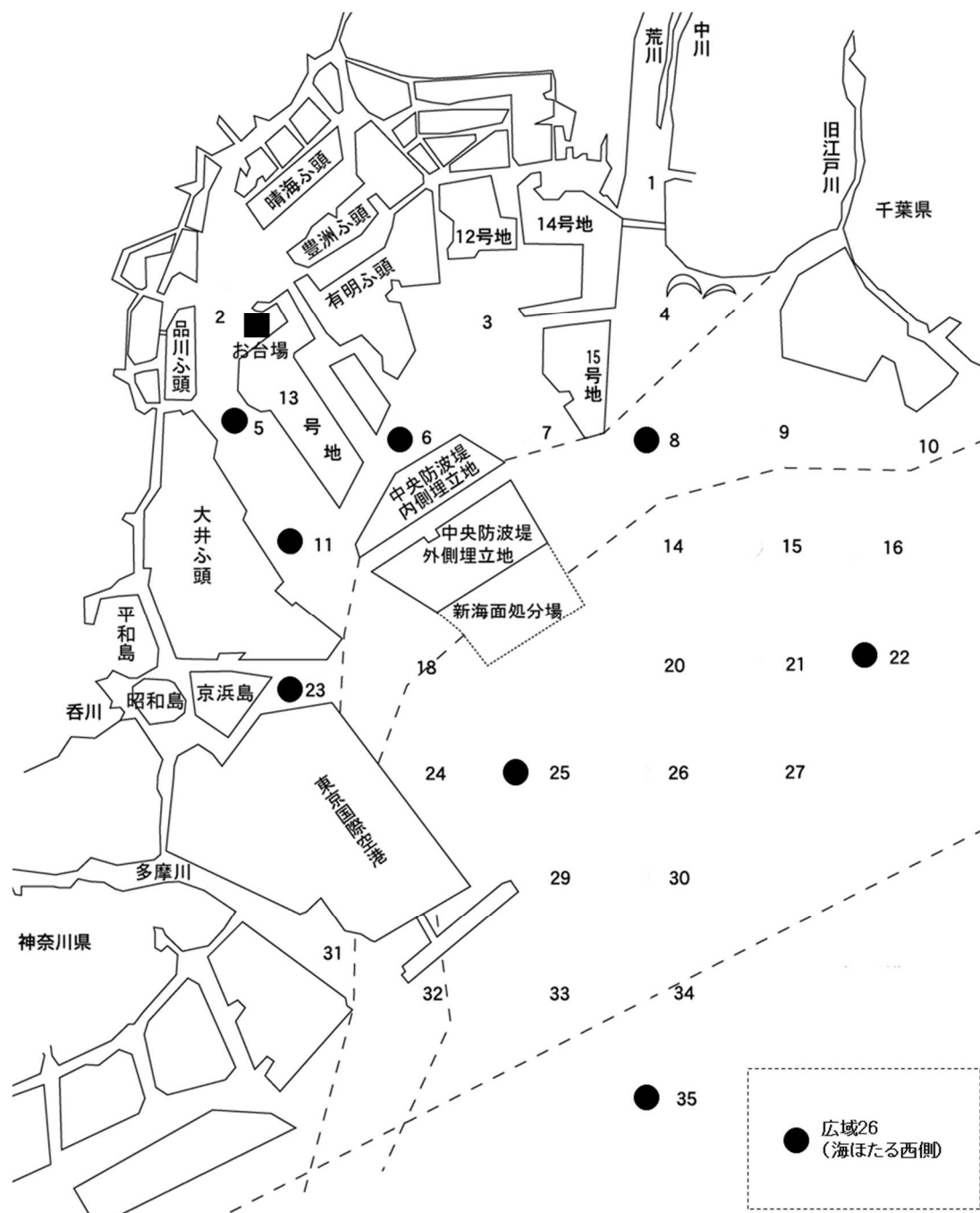
東京都環境局では、水質汚濁防止法第 16 条の測定計画に基づく毎月の水質測定調査時に動植物プランクトン上位 10 種の同定・計数を行っているほか、夏季期間中に延べ 17 日間の赤潮調査（上位 5 種）を実施し、概ね毎週、赤潮発現の推移を見ている。

令和 5 年 7 月 25 日の赤潮調査と 8 月上旬に実施した水質測定調査で確認されたプランクトン種を報告する。

【調査実施日・地点】

①赤潮調査：7月25日 計8地点（お台場, St.6, 8, 11, 22, 23, 25, 35）

②内湾水質測定調査：8月1, 2, 9日 計9地点 (St.5, 6, 8, 11, 22, 23, 25, 35, 広域26)



【①赤潮調査 (7月25日)】

調査前は2週間以上降雨がなく、最高気温が30℃を超える日が続いた。

沖合の St.22 と St.35 を除いた 6 地点で赤潮が確認され、お台場と St.8 を除き底層の溶存酸素量が 2.0mg/L 未満の貧酸素状態であった。

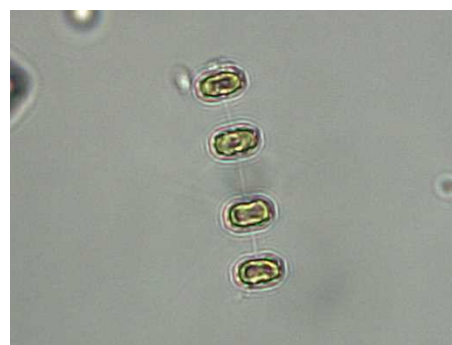
東京都では、1 回の赤潮調査につき数地点で表層水を採水し、動植物プランクトン優占5種の定量を実施している。7月25日はお台場、St.6、St.8 の3地点について定量を行った。

結果は表1のとおり、細胞数では *Thalassiosira* spp.や *Thalassiosiraceae* が最多となり、次いで *Cryptomonadaceae*、*Skeletonema costatum* が多く見られた。また、*Euglenophyceae* も比較的多く、優占5種に入った。

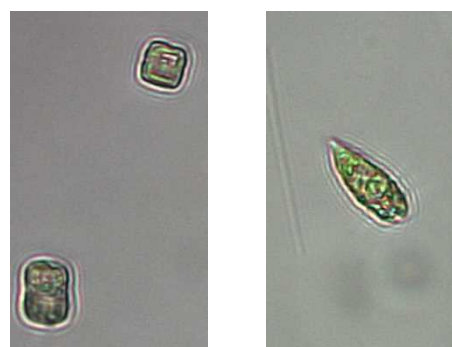
動物プランクトンでは繊毛虫類の *Oligotrichida* や *Mesodinium rubrum* などが見られた。

表1 7/25 赤潮調査におけるプランクトン定量結果

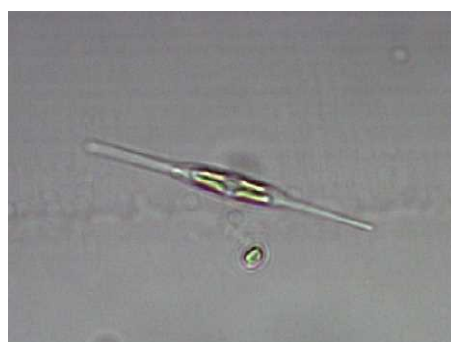
調査地点	お台場	St.6	St.8
採取年月日	7/25	7/25	7/25
植物プランクトン			
種名	細胞数(単位: $\times 10^6$ 細胞数/ m^3)		
<i>Cryptomonadaceae</i>	10,300	12,900	11,800
<i>Skeletonema costatum</i>	8,390		5,510
<i>Thalassiosira</i> spp.	19,600		
<i>Thalassiosiraceae</i>	16,200	17,900	21,200
<i>Chaetoceros</i> spp.		2,630	
<i>Cylindrotheca closterium</i>		2,120	2,380
<i>Euglenophyceae</i>	4,250	3,060	2,740
other phytoplankton	9,720	7,340	9,500
動物プランクトン			
種名	個体数(単位: $\times 10^6$ 個体数/ m^3)		
<i>Mesodinium rubrum</i>	11.4	1.84	8.63
<i>Tintinnopsis</i> sp.			0.21
<i>Helicostomella subulata</i>	1.68	1.84	
<i>Favella ehrenbergii</i>		1.45	
<i>Eutintinnus</i> sp.	9.68	2.63	0.84
<i>Oligotrichida</i>	49.3	6.58	19.6
Ciliata	70.7		
Nauplius of Copepoda			3.16
other zooplankton	3.68	2.76	0.26



Thalassiosira sp.



Thalassiosiraceae Euglenophyceae



Cylindrotheca closterium

【②水質測定調査】

8月1日 (St.23, 25, 35, 広域 26) : 調査前は3週間以上降雨がなかったが、当日は12.5 mmの降雨があった。

8月2日 (St.5, 6, 8, 11) : 当日の天候は晴。

8月9日 (St.22) : 8月2日に強風で実施できなかった地点を調査。調査3日前に4 mm、当日に8 mmの降雨があった。

最高気温が30°Cを超える日が続いていた。

降雨の影響か、調査した9地点のうち2地点 (St.6、St.11) が赤潮気味であった。

St.8を除き、底層の溶存酸素量が2.0 mg/L未満の貧酸素状態であった。

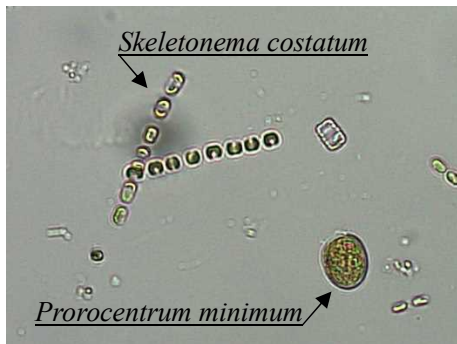
各地点の動植物プランクトン上位10種と細胞数は表2のとおり。

Skeletonema costatum や Cryptomonadaceae、*Thalassiosira binata* が細胞数での優占種となり、そのほか Euglenophyceae や *Prorocentrum minimum* などが多く観察された。

また、動物プランクトンでは Oligotrichida やカイアシ類の幼生などが見られた。

観察された主な種の顕微鏡下写真

植物プランクトン



Skeletonema costatum (珪藻)

Prorocentrum minimum (渦鞭毛藻)

動物プランクトン



カイアシ類の幼生

表2 8月の水質測定調査におけるプランクトン定量結果

調査地点	St.5	St.6	St.8	St.11	St.22	St.23	St.25	St.35	広26
採集年月日	8月2日	8月2日	8月2日	8月2日	8月9日	8月1日	8月1日	8月1日	8月1日
植物プランクトン									
種名	細胞数 (単位: $\times 10^6$ 細胞/m ³)								
Cryptomonadaceae	1,360	3,910	169	3,180	1,610	624	2,830	708	1,450
<i>Prorocentrum minimum</i>	738	1,690		2,870		248	632		
<i>Prorocentrum triestinum</i>		290					286		
<i>Gymnodinium</i> sp.								190	
<i>Gyrodinium</i> sp.	127			286					
Gymnodiniales			22		210	168		214	274
<i>Heterocapsa</i> sp.	206		26	135				75	
<i>Protoperidinium bipes</i>					204				
Peridinales		290			321			169	222
<i>Cyclotella</i> sp.			46						
<i>Skeletonema costatum</i>	5,630	6,520	1,430	6,000		3,060	2,710		
<i>Thalassiosira binata</i>	2,450	2,120	218	3,840	6,550	4,130	3,910		
Thalassiosiraceae	660	1,790	1,170	756		1,440	1,270		93
<i>Leptocylindrus danicus</i>									159
<i>Leptocylindrus minimus</i>		906				179	480		68
<i>Cerataulina pelagica</i>					131				
<i>Chaetoceros</i> subgen. <i>Hyalochaete</i> sp.					180				
<i>Neodelphineis pelagica</i>			26		1,100			115	115
<i>Cylindrotheca closterium</i>	300	612	37	269		400	846	81	312
Euglenophyceae	524	3,120	32	1,040	624	678	1,580	424	224
Prasinophyceae								67	
other Micro-flagellates	137	330		666	564	133	484	445	440
others	622	1,040	113	542	596	601	1,290	312	559
合計細胞数	12,754	22,618	3,289	19,584	12,090	11,661	16,318	2,800	3,916
動物プランクトン									
種名	個体数 (単位: $\times 10^6$ 個体/m ³)								
<i>Mesodinium rubrum</i>		0.35	0.20		0.03			0.80	
<i>Tintinnidium mucicola</i>				0.07					
<i>Tintinnopsis corniger</i>				0.02				0.04	0.07
<i>Tintinnopsis</i> sp.			0.02			0.15			
<i>Helicostomella fusiformis</i>	0.20	1.20			0.35	1.85	3.30	1.10	0.63
<i>Favella ehrenbergii</i>							0.27		
<i>Eutintinnus lusus-undae</i>				0.01					
<i>Eutintinnus</i> sp.							0.24		0.06
<i>Amphorellopsis acuta</i>						0.60			0.08
Oligotrichida	0.60	2.40	0.95	1.60	5.80	0.90	1.80	0.44	0.75
Hypotrichida		1.15		0.70				0.17	
Ciliata	0.95	0.60	0.80	0.60	1.90	0.95			0.14
<i>Brachionus plicatilis</i>					0.03				
<i>Trichocerca marina</i>		0.23					0.60	0.13	
<i>Synchaeta</i> sp.	0.05	0.15		0.05			0.06		
Veliger larva of Bivalvia	0.05				0.43		0.02	0.02	
Polychaeta larva	0.01					0.01		0.09	
<i>Evadne tergestina</i>					0.08				
Copepodite larva of <i>Acartia</i>			0.01						
<i>Oithona davisae</i>	0.02	0.06	0.02	0.04	0.12	0.04	0.17	0.14	0.03
Copepodite larva of <i>Oithona</i>	0.09	0.12	0.05	0.05	0.23	0.10	0.34		0.60
Nauplius larva of Copepoda	3.20	1.40	0.16	1.40	5.60	1.85	2.10	2.20	1.45
Nauplius larva of Cirripedia	0.01								
<i>Oikopleura dioica</i>			0.01			0.02			0.04
<i>Oikopleura</i> sp.			0.01						
合計個体数	5.18	7.66	2.23	4.54	14.57	6.47	8.90	5.13	3.85

水生生物調査結果

東京都環境局自然環境部水環境課

東京都環境局では、東京都内湾部、浅海部、干潟部において水生生物調査を実施している。

令和5年7月から9月には、稚魚、成魚、鳥類、底生生物の各種調査を実施した。

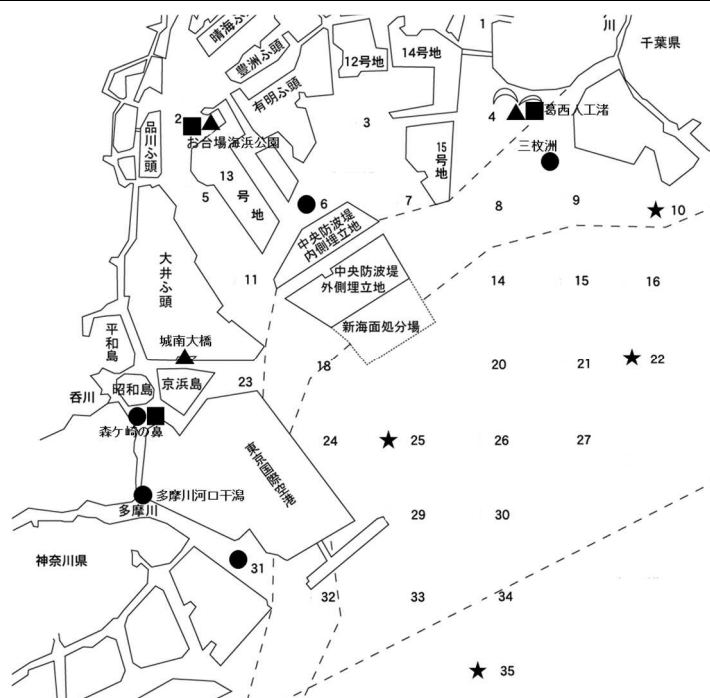
なお、稚魚調査は小型地引網、成魚調査は小型底引網を用いて調査している。

【調査実施日】

稚魚：8月1日、成魚：9月7日、鳥類：8月3日、底生生物：8月30日・9月6日

【調査地点】

調査地点		稚魚	成魚	鳥類	底生生物
内湾部	St.6				●
	St.22		★		
	St.25		★		
	St.35		★		
浅海部	St.10 (江戸川河口・高洲)		★		
	三枚洲 (荒川河口)				●
	St.31 (多摩川河口)				●
干潟部	葛西人工渚	▲		■	
	お台場海浜公園	▲		■	
	城南大橋	▲			
	森ヶ崎の鼻			■	●
	多摩川河口干潟				●
地点数		3	4	3	5



【調査結果概要】

1. 稚魚調査 (8月1日)

天気は曇りであったが、調査地点間を移動中、一時的に雷を伴う大雨があった。

主に採取された主な魚種は次のとおり。(速報のため、種名等は未確定)

お台場海浜公園ではハゼ科仔魚が非常に多く出現したほか、カワハギが本調査で初めて出現した。

		お台場	城南大橋	葛西人工渚
魚類	ハゼ科仔魚	G		
	マハゼ	c	c	c
	コノシロ	+	c	
	ピリンゴ	c		+
	エドハゼ			+
	トラフグ			+
	カライワシ			+
	ヒイラギ	r		
	マゴチ		r	
	ギマ		r	
コショウダイ		r		
魚類以外	ニホンイサザアミ	m	G	
	シラタエビ			G
	エビジャコ属	+	r	r
	アキアミ	r		
	ユビナガスジエビ		r	
	ガザミ			r

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

○調査で確認した主な種



2. 成魚調査 (9月7日)

当日の天候は曇り、潮差は小潮であった。採取された主な種は次のとおり。(速報のため、種名は未確定)

St.10 を除き下層は貧酸素状態であり、全地点で魚類は出現しなかった。

夏の成魚調査では珍しく、全地点でホンビノスガイの生きている個体が確認された。

		St.35	St.25	St.22	St.10
下層DO[mg/L]		1.0	1.5	0.5	4.3
魚類		出現せず			
魚類 以外	ホンビノスガイ	r	r	r	c
	イガイ科	r	r		
	サルボウガイ				r

c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

○調査で確認した主な種



3. 底生生物調査 (8月30日 (三枚洲以外)・9月6日 (三枚洲))

採取された種は次のとおり。(速報のため、種名は未確定)

St.6では水深約12mのところ、水深約7.0m以深が貧酸素状態にあり、水底付近はほぼ無酸素状態であった。

森ヶ崎の鼻では、昨年度確認できた甲殻類が今年度は確認できなかった。

	出現種
多摩川河口干潟	ヤマトオサガニ、ヤマトシジミ、ムロミスナウミナナフシ、チロリ属、紐形動物門
森ヶ崎の鼻	ムロミスナウミナナフシ、ミズヒキゴカイ、ゴカイ科
St.6	生体は確認されず
三枚洲 (荒川河口)	アサリ、ホンビノスガイ、シオフキ、マテガイ、シノブハネエラスピオ
St.31(多摩川河口)	アサリ、カガミガイ、アラムシロ、ホトトギスガイ、ミズヒキゴカイ

○調査で確認した主な種



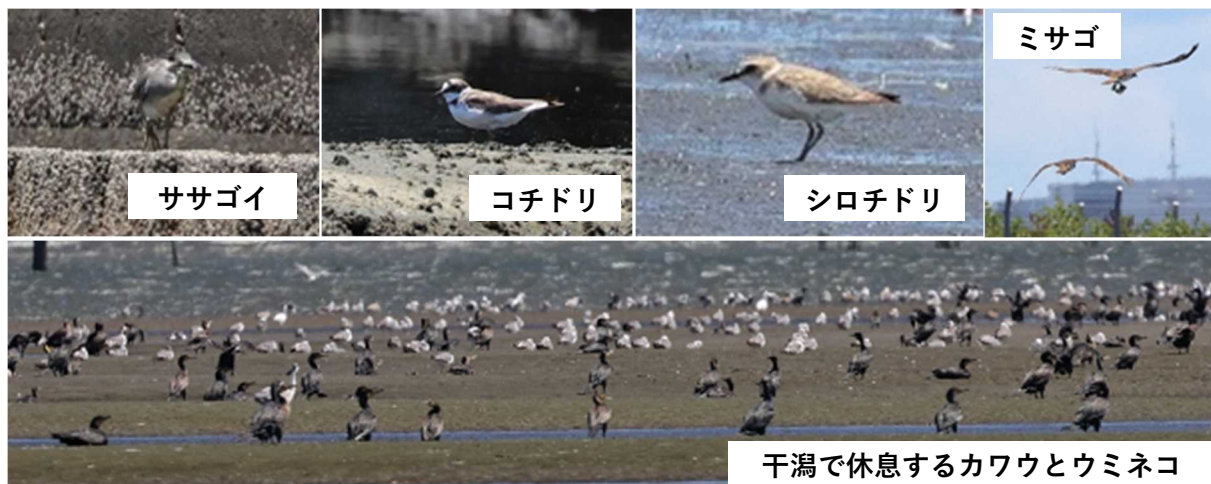
4. 鳥類調査 (8月3日)

当日の天候は晴、潮差は大潮であった。出現種と数は次のとおり。

東京都レッドリスト 2020 年版 (区部) で絶滅危惧 IA 類に指定されているササゴイやコチドリが森ヶ崎の鼻で、シロチドリが葛西人工渚でそれぞれ確認された。また、絶滅危惧 IB 類に指定されているオオソリハシシギが葛西人工渚で、ミサゴが森ヶ崎の鼻でそれぞれ確認された。

	葛西人工渚 (東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場 海浜公園
確認された種数	12種	15種	9種
カルガモ	3	1	
カワウ	2640	671	759
ササゴイ		1	
アオサギ	14	21	11
ダイサギ	26	13	13
チュウサギ		2	
コサギ	7	5	6
コチドリ		1	
シロチドリ	2	2	
オオソリハシシギ	1		
キアシシギ	7	1	2
イソシギ	2	5	2
キョウジョシギ	3		
ユリカモメ		1	
ウミネコ	1736	200	5
オオセグロカモメ	56		
ミサゴ		2	
トビ			2
ハクセキレイ		2	1

○調査で確認した種



生物調査（干潟以外）のレポート③

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
関東地方整備局 京 浜港湾事務所	横浜港本牧沖	7月26日～28日	海藻類、魚類及び着 生生物等

生物調査の結果

団体名	関東地方整備局 京浜港湾事務所		
調査地点名	横浜港本牧沖（図1 調査平面図、図2 調査地点概要図 参照）		
位置座標 （可能であれば）	緯度		
	経度		
実施年月日	令和5年7月26日～28日		



図 1 調査地点平面図

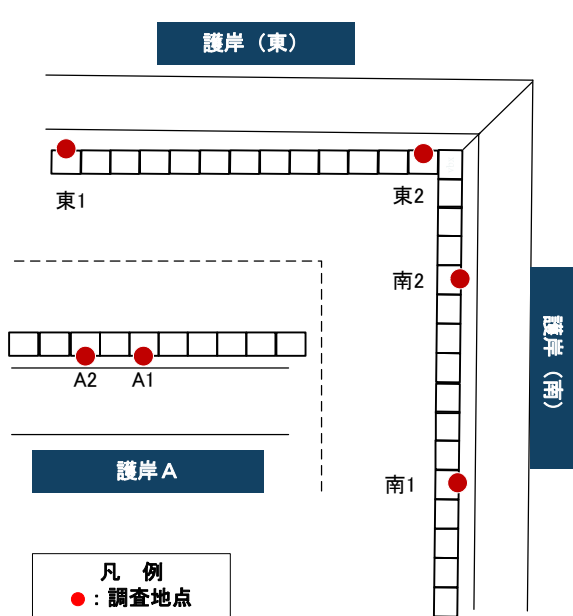


図 2 調査地点概要図

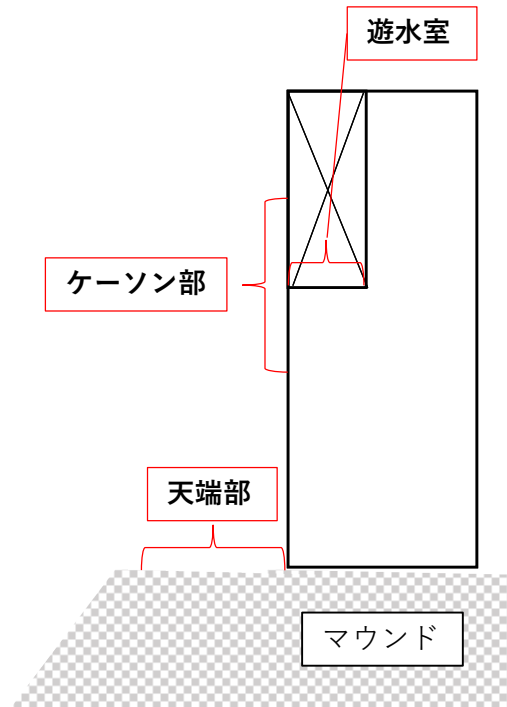


図 3 潜水目視調査範囲図 (ケーソン断面図)

【調査方法】

潜水士による目視により海藻類、魚類及び着生生物等の観察、撮影の実施。

【調査結果】

現地調査結果は以下のとおりである。

表 1 出現種一覧（調査地点：東 1）

調査日：令和 5 年 7 月 27 日

区分	種名	ケーソン部	遊水室	天端部	
海藻類	アオノリ属	●			
	アオサ属	●			
動物	海綿動物門	●			
	ヒドロ虫綱	●		●	
	イソギンチャク目	●	●	●	
	苔虫綱	●		●	
	アカエラミノウミウシ			●	
	ムラサキイガイ	●	●		
	ミドリイガイ	●	●		
	マガキ	●			
	ウスカラシオツガイ	●	●		
	マダコ			●	
	ケヤリムシ科	●			
	カンザシゴカイ科	●		●	
	イワフジツボ	●			
	タテジマフジツボ	●			
	アメリカフジツボ	●			
	サンカクフジツボ	●			
	オオアカフジツボ	●			
	チンオウフジツボ	●			
	イシガニ			●	
	イッカククモガニ			●	
	キヒトデ		●	●	
	サンショウウニ			●	
	カタコウレイボヤ	●		●	
	イタボヤ科	●			
	エボヤ	●		●	
	シロボヤ	●	●	●	
	マンハッタンボヤ	●		●	
	ホヤ綱(単体性)	●		●	
	ホヤ綱(群体性)	●		●	
	カサゴ	●			
	クロダイ	●			
	イソギンボ	●			
	シマハゼ類	●			
	合計	35 種	29 種	6 種	16 種

注) ●は出現種を示す。

表 2 出現種一覧 (調査地点：東 2)

調査日：令和 5 年 7 月 27 日

区分	種名	ケーソン部	遊水室	天端部
海藻類	アオノリ属	●		
	アオサ属	●		
底生生物	海綿動物門			●
	ヒドロ虫綱	●		●
	タテジマイソギンチャク	●		
	イソギンチャク目	●	●	●
	ツノマダコケムシ科	●		●
	フサコケムシ	●		
	ホソフサコケムシ	●		
	苔虫綱	●		●
	シマメノウフネガイ	●		
	アカニシ	●		
	レイシガイ	●		
	イボニシ	●		
	フトコロガイ科	●		
	ウスカラシオツガイ		●	
	アカエラミノウミウシ	●		
	ヒバリガイ	●		
	ムラサキイガイ	●	●	●
	ミドリイガイ	●	●	
	マガキ	●	●	●
	マダコ			●
	ミズヒキゴカイ科	●	●	●
	ケヤリムシ科	●		●
	カンザシゴカイ科	●		●
	イワフジツボ	●		
	アメリカフジツボ	●		
	サンカクフジツボ	●		●
	オオアカフジツボ	●		
	ナンオウフジツボ	●		
	ヨツハモガニ	●		
	サンショウウニ	●		
	キヒトデ			●
	カタユウレイボヤ	●		
	イタボヤ科	●		
	エボヤ	●		
	シロボヤ	●	●	●
	マンハッタンボヤ	●		●
	ホヤ綱 (単体性)			●
	ホヤ綱 (群体性)	●		
	不明棲管	●		
	カサゴ	●		●
イソギンボ	●			
イシガニ		●	●	
(硫黄酸化細菌のマット)		●		
合計	45 種	38 種	9 種	18 種

注) ●は出現種を示す。

表 3 出現種一覧（調査地点：南 1）

調査日：令和 5 年 7 月 26 日

区分	種名	ケーソン部	遊水室	天端部
海藻類	アオノリ属	●		
	アオサ属	●		
底生生物	ヒドロ虫綱	●	●	●
	イソギンチャク目	●	●	
	ホソフサコケムシ	●		
	苔虫綱	●		●
	ハナギンチャク目			●
	ムラサキイガイ	●	●	
	ミドリイガイ	●	●	
	マガキ	●		
	ウスカラシオツガイ	●	●	
	マダコ			●
	ウミフクロウ			●
	アカエラミノウミウシ			●
	ケヤリムシ科			●
	カンザシゴカイ科	●	●	●
	イワフジツボ	●		
	タテジマフジツボ	●		
	アメリカフジツボ	●		
	サンカクフジツボ	●		
	オオアカフジツボ	●		
	チンオウフジツボ	●		
	ヨツハモガニ	●		
	イッカククモガニ			●
	イシガニ	●	●	
	キヒトデ		●	●
	カタユウレイボヤ	●		●
	ヌノメイトマキヒトデ			●
	イタボヤ科	●		●
	エボヤ	●	●	●
	シロボヤ	●	●	●
	ウスボヤ科			●
	マンハッタンボヤ			●
	ホヤ綱(単体性)	●		●
	ホヤ綱(群体性)	●	●	●
	オニオコゼ	●		
	クロダイ	●		
	イソギンボ	●		
チベカ	●			
カサゴ			●	
合計	40 種	29 種	11 種	20 種

注) ●は出現種を示す。

表 4 出現種一覧 (調査地点：南 2)

調査日：令和 5 年 7 月 26 日

区分	種名	ケーソン部	遊水室	天端部
海藻類	アオノリ属	●		
	アオサ属	●		
底生生物	海綿動物門	●		●
	ヒドロ虫綱	●	●	●
	タテジマイソギンチャク	●		
	ハナギンチャク目			●
	イソギンチャク目	●	●	●
	チゴケムシ			●
	ツノマダコケムシ科	●		●
	ホソフサコケムシ	●	●	
	苔虫綱	●		●
	レイシガイ	●		
	イボニシ	●		
	ムラサキイガイ	●	●	
	ミドリイガイ	●	●	
	マガキ	●		
	ウスカラシオツガイ	●	●	
	マダコ			●
	ミズヒキゴカイ科	●		
	ケヤリムシ科	●		●
	カンザシゴカイ科	●	●	●
	イワフジツボ	●		
	タテジマフジツボ	●		
	アメリカフジツボ	●		
	サンカクフジツボ	●		
	オオアカフジツボ	●		
	ナンオウフジツボ	●		
	イシガニ	●	●	●
	サンショウウニ	●	●	
	ヌノメイトマキヒトデ			●
	イトマキヒトデ			●
	マナマコ			●
	カタユウレイボヤ	●		●
	イタボヤ科	●		
	エボヤ	●		●
	シロボヤ	●		●
	マンハッタンボヤ			●
	ホヤ綱(単体性)	●		●
	ホヤ綱(群体性)	●		
	カサゴ	●		●
	イソギンボ	●		
	チベカ	●		
	キヒトデ		●	●
(硫黄酸化細菌のマット)		●		
合計	44 種	35 種	11 種	21 種

注) ●は出現種を示す。

表 5 出現種一覧 (調査地点 : A1)

調査日 : 令和 5 年 7 月 28 日

区分	種名	ケーソン部	遊水室	天端部	
海藻類	アオノリ属	●			
	アオサ属	●	●		
底生生物	ヒドロ虫綱	●		●	
	イソギンチャク目	●			
	フサコケムシ	●			
	ホソフサコケムシ	●			
	ツノマタコケムシ科			●	
	苔虫綱			●	
	アカエラミノウミウシ	●		●	
	ムラサキイガイ	●	●		
	ミドリイガイ	●			
	マガキ	●	●		
	ウスカラシオツガイ	●	●		
	マダコ	●		●	
	トゲアメフラシ			●	
	ウミフクロウ			●	
	ケヤリムシ科	●		●	
	カンザシゴカイ科	●		●	
	イワフジツボ	●			
	タテジマフジツボ	●			
	アメリカフジツボ	●			
	サンカクフジツボ	●			
	オオアカフジツボ	●			
	ヨツハモガニ	●			
	イシガニ	●	●	●	
	サンショウウニ			●	
	キヒトデ	●		●	
	マナマコ	●		●	
	カタユウレイボヤ	●	●	●	
	イタボヤ科	●		●	
	エボヤ	●	●	●	
	シロボヤ	●	●	●	
	ウスボヤ科			●	
	マンハッタンボヤ			●	
	ホヤ綱(単体性)	●		●	
	ホヤ綱(群体性)	●	●		
	カサゴ	●		●	
	イソギンボ	●			
	シマハゼ類	●	●	●	
	タテジマイソギンチャク		●		
	クロダイ		●		
	シマイサキ		●		
	マアジ			●	
	合計	43 種	32 種	13 種	23 種

注) ●は出現種を示す。

表 6 出現種一覧（調査地点：A2）

調査日：令和 5 年 7 月 28 日

区分	種名	ケーソン部	遊水室	天端部
海藻類	アオノリ属	●		
	アオサ属	●		
底生生物	ヒドロ虫綱	●		●
	イソギンチャク目	●		●
	フサコケムシ	●		
	ホソフサコケムシ	●		
	ツノマダコケムシ科			●
	苔虫綱			●
	ムラサキイガイ	●	●	
	ミドリイガイ	●		
	ウスカラシオツガイ		●	
	マガキ	●	●	
	ウミフクロウ			●
	アカエラミノウミウシ			●
	マダコ			●
	ミスヒキゴカイ科			●
	ケヤリムシ科	●		●
	カンザシゴカイ科	●		●
	イッカククモガニ			●
	イワフジツボ	●		
	タテジマフジツボ	●		
	アメリカフジツボ	●		
	サンカクフジツボ	●		
	チンオウフジツボ	●		
	イシガニ	●	●	●
	キヒトデ	●		●
	マナマコ	●		●
	カタユレイボヤ	●	●	●
	イタボヤ科	●		●
	エボヤ	●		
	シロボヤ	●	●	●
	ウスボヤ科			●
	マンハッタンボヤ			●
	ホヤ綱(単体性)	●		●
	ホヤ綱(群体性)	●	●	
	ボラ	●	●	
	カサゴ	●		
	クロダイ	●		●
シマハゼ類	●	●	●	
マアジ			●	
シマイサキ			●	
キュウセン			●	
合計	42 種	29 種	9 種	25 種

注) ●は出現種を示す。

【代表的な確認種】

護岸（東）



シロボヤ

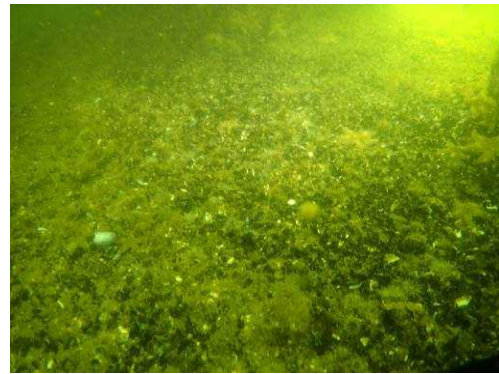


カンザシゴカイ科

護岸（南）



イワフジツボ



ムラサキイガイ

護岸A



マダコ

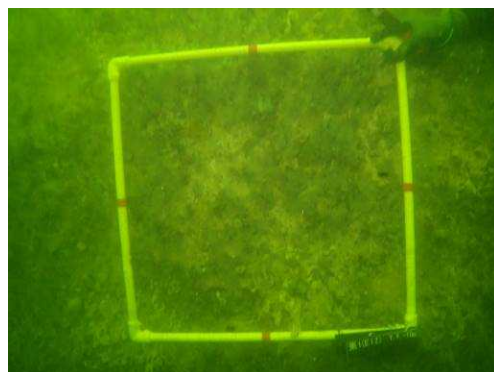


マナマコ

【調査の様子】



潜水目視観察



コドラート調査

生物調査（干潟以外）のレポート④

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
東京都板橋区	石神井川	7月31日	魚類、底生動物

生物調査の結果

団体名	東京都板橋区		
調査地点名	石神井川 ①久保田橋 ②緑橋		
位置座標 (可能であれば)	緯度	①N35.45.26 ② N35.45.20	
	経度	①E139.41.46 ② E139.42.57	
実施年月日	令和5年7月31日(月)		

1 調査概要

① 調査地点及び調査実施日

河川名	調査地点名	調査実施日	天候	気温 (°C)	水温 (°C)
石神井川	①久保田橋付近	2023/7/31 (月)	晴れ	33.0	25.0
	②緑橋付近	2023/7/31 (月)	晴れ	35.0	29.0

② 調査方法

各調査地点において投網、タモ網（手網）及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。

採集した個体は現地で種の同定、個体の計測、写真撮影を行い、再放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象とした。



投網



タモ網



カゴ網

2 調査結果

① 河川状況

(1) 石神井川① 久保田橋付近

河床全面に護床ブロックが設置され、一部には植生ブロックが水制状に設置されている。植生ブロックにより小規模な瀬と淵が形成されている。

カゴ網は久保田橋下流の植生ブロック脇などやや淵状になっている2箇所を設置した。



(2) 石神井川② 緑橋付近

河道が蛇行しており、凸側に寄り州が形成されている。寄り州は砂で形成され、植生は前年度より多くなっていた。河道の一部には深みがあり、水草が繁茂する場所もあった。

カゴ網は緑橋の上流のやや淵状になっている箇所と橋下の滞留部に計2箇所設置した。



② 魚類調査結果

石神井川の2地点全体では、アブラハヤ、タモロコ、ドジョウなど、4目5科7種の魚類が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種として、絶滅危惧 II 類に該当するギバチ、ミナミメダカ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都 RL2020 区部」に該当する種として、絶滅危惧 IA 類に該当するドジョウ、ミナミメダカ、絶滅危惧 II 類に該当するギバチ、ヒガシシマドジョウ、準絶滅危惧に該当するアブラハヤが確認された。

外来種については該当する種は確認されなかった。

-
- 「環境省 RL2020」：環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）2020年
 絶滅危惧 II 類（VU）：絶滅の危険が増大している種
 準絶滅危惧（NT）：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
 - 「東京都 RL2020 区部」：東京都レッドリスト（本土部）2020年見直し版
 絶滅危惧 IA 類（CR）：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
 絶滅危惧 II 類（VU）：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
 準絶滅危惧（NT）：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
 - 外来種
 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種（2023）。
 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種（2016）
-

魚類調査結果

No.	目名	科名	種名	石神井川		合計	環境省 RL2020	東京都 RL2020 見直し版	外来種	
				①	②					
				久保田橋付近	緑橋付近					
1	コイ目	コイ科	アブラハヤ	9	3	12		NT		
2			タモロコ	10	16	26				
3		ドジョウ科	ドジョウ	2	52	54	NT	CR		
4			ヒガシシマドジョウ	6	7	13		VU		
5	ナマズ目	ギギ科	ギバチ	47	2	49	VU	VU		
6	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ		1	1	VU	CR		
7	スズキ目	ハゼ科	ヨシノボリ属		1	1				
	4目	5科	7種	種類数計	5	7	7	3	5	0
				個体数計	74	82	156			

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2022」に従った。

地点別魚類捕獲状況

地点	No.	種名	体長(mm)		個体数	備考
			最大	最小		
石神井川	①久保田橋付近	1 アブラハヤ	31	28	9	
		2 タモロコ	34	22	10	
		3 ドジョウ	110	32	2	
		4 ヒガシシマドジョウ	67	37	6	
		5 ギバチ	24	15	47	
	②緑橋付近	1 アブラハヤ	27	21	3	
		2 タモロコ	32	28	16	
		3 ドジョウ	116	20	52	
		4 ヒガシシマドジョウ	36	25	7	
		5 ギバチ	17	16	2	
		6 ミナミメダカ	24		1	
		7 ヨシノボリ属	37		1	



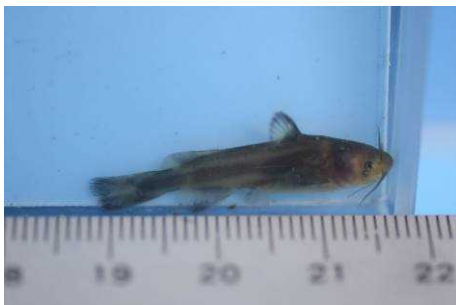
タモロコ



ドジョウ



ヒガシシマドジョウ



ギバチ



ミナミメダカ



ヨシノボリ属

③ 底生動物調査結果

石神井川の2地点全体では、タンスイカイメン科、モノアラガイ属など、7綱16目17科21種の底生動物が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種は確認されなかった。

「東京都 RL2020 区部」に該当する種として、留意種に該当するモクズガニが確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかったが、「その他の総合対策外来種」に該当するフロリダマミズヨコエビが確認された。

底生動物調査結果

No.	綱名	目名	科名	種名	学名	石神井川		合計	環境省 RL2020	東京都 RL2020 見直し版 区部	外来種		
						① 久保田橋 付近	② 縁橋 付近						
1	普通海綿綱	ザラカイメン目	タンスイカイメン科	タンスイカイメン科	Spongillidae		*						
2	有棒状体綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorocephala</i>		2	2					
3	腹足綱	汎有肺目	モノアラガイ科	モノアラガイ属	<i>Radix</i> sp.	7	13	20					
4	ミミズ綱	オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	オヨギミミズ科	Lumbriculidae	2	2	4					
5		イトミミズ目	ミズミミズ科	エラミミズ	<i>Branchiura sowerbyi</i>	3	1	4					
6				ミズミミズ科	Naididae		1	1					
7		ツリミミズ目	ヒモミミズ科	ヤマトヒモミミズ	<i>Biradilus bathybates</i>	1	2	3					
8	ヒル綱	吻蛭目	ヒラタヒル科	ハバヒロヒル	<i>Alboglossiphonia lata</i>		1	1					
9		吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>	10	9	19					
10	軟甲綱	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i>	3	5	8			その他		
11		ワラジムシ目	ミズムシ科(甲)	ミズムシ(甲)	<i>Asellus hilgendorfi hilgendorfi</i>	9	8	17					
12		エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.	72	26	98					
13			モクズガニ科	モクズガニ	<i>Eriocheir japonica</i>	1	1	1			留		
14	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	トンボ科	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>		1	1					
15		カメムシ目(半翅目)	アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	1	1	2					
16		トビケラ目(毛翅目)		シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i>		1	1				
17					コガタシマトビケラ属	<i>Cheumatopsyche</i> sp.		1	1				
18				ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ属	<i>Hydroptila</i> sp.		1	1				
19		ハエ目(双翅目)		ユスリカ科	ハモンユスリカ属	<i>Polypedilum</i> sp.		1	1				
20					ヒゲユスリカ属	<i>Tanytarsus</i> sp.	1	8	9				
21					ユスリカ亜科	Chironominae		1	1				
						種類数計	11	20	21	0	1	1	
						個体数計	110	85	195				

○「環境省 RL2020」：環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）2020年

○「東京都 RL2020 区部」：東京都レッドリスト（本土部）2020年見直し版

留意種（留）：現時点では絶滅の恐れはないと判断されるが、いずれかの理由で留意が必要とされるもの（理由本文を要約）

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種（2023）。

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種（2016）

その他の総合対策外来種（その他）：総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種以外の種。



モクズガニ



カワリヌマエビ属

3 調査結果のまとめ

魚類の経年変化について

石神井川久保田橋付近では、平成 20 年以前は 6 種、平成 21 年からはドジョウ、アブラハヤなど 0~6 種と確認種数は少なかったが、本年度の確認種は、アブラハヤ、タモロコ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチの 5 種であり、令和 3 年度に比べ、種類数、個体数とも増加している。

特に個体数については、ドジョウ、ギバチが令和 3 年度に続き確認されたが、令和 3 年度に個体数が最も多く確認されたウグイは確認されなかった。また、個体数は 1 個体と少ないものの、令和 2 年度に初めて確認されたタイリクバラタナゴ、グッピーについても確認されなかった。しかしながら、令和 3 年度に確認されなかったアブラハヤ、ヒガシシマドジョウが確認されたほか、平成 30 年以降確認されなかったタモロコが 10 個体確認された。

現地調査時の河川の状況は、昨年よりやや増水していた状況であったが、久保田橋付近の環境が大きく変化した様子は見られないことから、これら出現種の変化については、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水による影響の可能性が考えられる。

石神井川緑橋付近では、平成 20 年以前は 11 種、平成 21 年からはアブラハヤ、モツゴ、ドジョウ、ギバチなど 1~9 種が確認されている。本年度の確認種は、アブラハヤ、タモロコ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチ、ミナミメダカ、ヨシノボリ属の計 7 種であり、令和 3 年度に比べ、種類数は減少したが、個体数は増加している。この地点は、規模は小さいものの寄り州があり、流れの中に水草が繁茂する場所もある。本年度は例年と同様にアブラハヤ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチ、ヨシノボリ属が令和 3 年度に続き確認されたが、ウグイ、モツゴは確認されなかった。令和 3 年度に初めて確認されたグッピーについても確認されなかった。しかしながら、令和 2 年以降確認されなかったタモロコ 16 個体と、平成 30 年以降確認されなかったミナミメダカが 1 個体ではあるが再び確認された。

生息する種類や個体数の変動の要因としては、石神井川は両地点とも河川構造が概ね単純な 3 面張り護岸となっており、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の魚類が、下流に押し流されたり、逆に上流から流されて来たりすることによるものと考えられる。したがって、今後も魚類相の変化や個体数の変動について継続して把握することが必要であると考えられる。

一般的には、久保田橋付近に設置されている植生ブロックや大きささまざまな寄り州、またはブロックのすき間、水草などは、増水などからの逃げ場となりえる環境と考えられており、現状より増加することが望まれる。

生物調査（干潟以外）のレポート⑤

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所	東京湾内	①8月2日 8月29日～8月31日 8月4日 ②8月7日	①浅場に生息する水生生物 ②海底に生息する底生生物

生物調査の結果

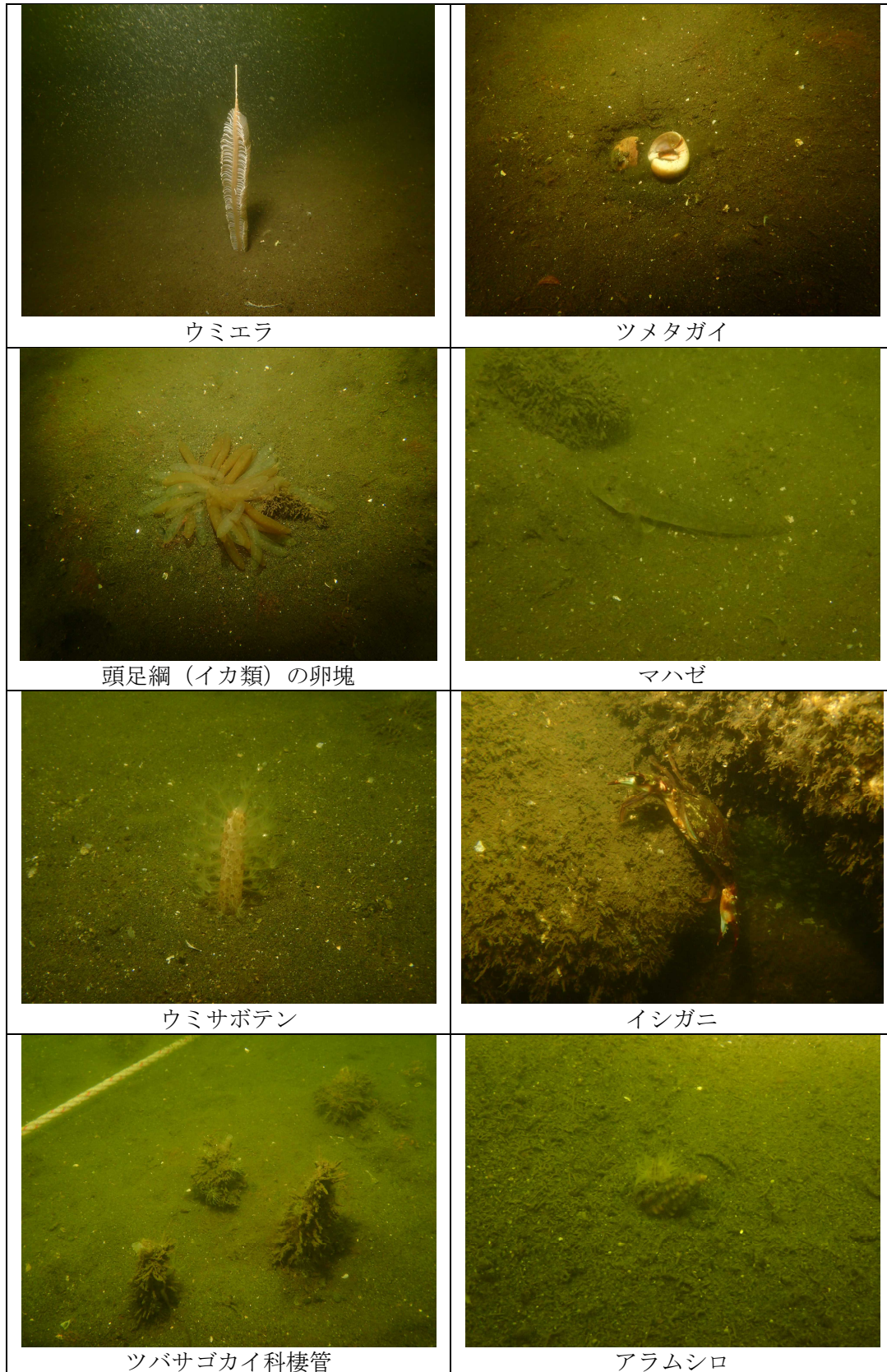
団体名	国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所	
調査地点名	① Stn.1 ② Stn.2 ③ Stn.3 ④ Stn.4 ⑤ St.A ⑥ St.B ⑦ St.C ⑧ St.D ⑨ Stn.⑨-2'	
位置座標 (可能であれば)	緯度	①N35°33.978'、②N35°34.011'、③N35°33.908'、 ④N35°33.941' ⑤N35°32.162' ⑥N35°32.159' ⑦N35°32.155' ⑧N35°32.181' ⑨N35°32.037'
	経度	①E139°47.455'、②E139°47.524'、③E139°47.505'、 ④E139°47.574' ⑤E139°48.341' ⑥N35°48.334' ⑦N35°48.326' ⑧N35°48.318' ⑨E139°47.158'
実施年月日	①～④：令和5年8月2日 ⑤～⑧：令和5年8月29日～8月31日 ⑥：令和5年8月4日	

【対象生物】

浅場に生息する水生生物

【調査結果概要】

主な確認種の写真



①～④ Stn.1～Stn.4 では、以下の種が認められました。
(底生動物)

調査期日：令和 5 年 8 月 2 日
調査方法：エックマンバージ型採泥器による
3 回採泥
単 位：m²あたりの個体数および湿重量(g)

番号	門	種名	調査地点		Stn. 1		Stn. 2		Stn. 3		Stn. 4	
			個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量		
1	紐形動物	異紐虫目					15	1.48				
2		紐形動物門	474	0.59	444	0.74	15		+	252	0.59	
3	軟体動物	アラムシロ					15	8.00	15	9.19		
4		サルボウ							15	4.59		
5		ホトキヅガイ	2,844	42.07	563	4.59	622	0.44				
6		ホンビノスガイ					15	5.33				
7		アサリ	104	49.78	59	20.89	104	45.33	59	16.44		
8		ウスカラシオツガイ	15	0.44	15	0.15	104	4.89				
9		シズクガイ					15	0.15	15	0.30		
10		チヨノハナガイ	44	1.78								
11	環形動物	<i>Harmothoe</i> sp.							15	0.15		
12		<i>Eumida</i> sp.	119	+	15	+	133	+				
13		<i>Phyllodoce</i> sp.					119	0.15				
14		アルバチロリ	44	2.37								
15		<i>Glycera</i> sp.					15	0.30				
16		<i>Glycinde</i> sp.	15	+								
17		モクノリトヒメ	133	+	15	+	15	+	15	+		
18		オトヒメコカイ科							30	+		
19		ニホンカギコカイ									15	+
20		ハナカキコカイ	1,111	1.48	2,237	1.48	1,748	1.33	2,563	3.11		
21		アシナカコカイ	15	+	15	+	15	0.15				
22		オウキコカイ	89	1.93	30	0.44						
23		タンサクコカイ科					15	+			30	+
24		ミナミシロカネコカイ							15	+		
25		カタマカリギボシイソメ	15	0.15					30	0.15	15	+
26		<i>Schistomeringos</i> sp.	119	+								
27		ケンサキシビオ	207	0.74	681	1.78	30	0.15	15	0.15		
28		<i>Dipolydora</i> sp.							548	0.30	15	+
29		シノフハネエラスビオ	1,052	7.26	1,481	8.59	993	8.59	2,000	16.74		
30		<i>Polydora</i> sp.	133	+								
31		ミツバネスビオ	444	0.30	711	0.74	104	0.15				
32		エリタテスビオ	830	0.15	119	+	237	+	252	+		
33		イトエラスビオ	1,778	0.30	1,896	0.59	1,659	0.59	4,993	2.37		
34		<i>Scolelepis</i> sp.	800	1.48	607	0.30			119	+		
35		エラナシスビオ					15	+				
36		<i>Magelona</i> sp.							119	+		
37		ツバサコカイ属									15	+
38		<i>Chaetozone</i> sp.					44	0.15				
39		ミスヒキコカイ	89	9.19	148	25.78	178	24.59	30	4.00		
40		<i>Tharyx</i> sp.	3,363	4.44	2,163	2.07	1,467	1.48	74	0.15		
41		<i>Mediomastus</i> sp.	3,926	3.56	2,193	1.19	2,133	1.19	5,630	2.37		
42		チマキコカイ					30	1.19				
43		<i>Chone</i> sp.	415	0.74	815	2.52	296	0.74	430	0.74		
44	筈虫動物	<i>Phoronis</i> sp.					296	0.89	15	+	15	+
		種類数	25		30		27		19			
		合計	18,178	128.75	14,801	89.49	10,670	104.30	16,537	46.66		

注：「+」がある場合、個体数欄は群体等の出現を、湿重量欄は0.01g未満を示す。

(魚介類)

調査期日：令和5年8月2日
調査方法：潜水目視観察

No.	界	門	綱	種名	8月	
					L1 Stn1-Stn.2測線	L2 Stn3-Stn.4測線
1	動物	海綿動物	—	海綿動物門	●	●
2	動物	刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱	●	●
3			花虫	ウミサボテン	●	●
4				ウミエラ目	●	●
5				イソギンチャク目	●	●
6			軟体動物	腹足	アラムシロ	●
7		頭足		頭足綱(卵)	●	●
8		二枚貝		イタボガキ科	●	●
9		環形動物	ゴカイ	ツバサゴカイ科(棲管)	●	●
10				ミズヒキゴカイ科	●	●
11				カンザシゴカイ科	●	●
12		節足動物	軟甲	イシガニ	●	●
13		苔虫動物	—	苔虫動物門	●	●
14	脊椎動物	硬骨魚	マゴチ	●	●	
15			クロダイ	●		
16			マハゼ	●	●	
17			アカオビシマハゼ	●	●	
18			カワハギ	●		
確認種数					18種	16種

⑤ St.A～St.D では、以下の種が認められました。

地点			St. A		St. B		St. C		St. E	
分類			ボサ		ボサ		ボサ		ボサ	
魚類	番号	種名	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
	1	出現なし								
	合計		0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	種類数		0		0		0		0	
魚類以外	番号	種名	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
	1	ムギガイ					1	0.03		
	2	<i>Harmothoe</i> sp.					1	+		
	3	ホトシゴカイ科	1	+	1	+				
	4	ツノウミセミ			2	0.03	8	0.07		
	5	<i>Ophiactis</i> sp.			1	0.01	3	0.02	1	+
	合計		1	+	4	0.04	13	0.12	1	+
	種類数		1		3		4		1	

注：湿重量の+は0.01g未満を示す。

⑥ St.⑨-2'では、以下の種が認められました。

調査期日：令和5年8月4日
 調査方法：エクマンバージ型採泥器による3回採泥
 単 位：m²あたりの個体数および湿重量(g)

番号	門	種名	調査地点	
			個体数	湿重量
1	紐形動物	紐形動物門	637	0.74
2	軟体動物	アラムシロ	30	20.89
3		ホトシゴカイ	15	3.41
4		アサリ	267	11.11
5		マテガイ	2,978	28.59
6		シオフキ	89	3.41
7		環形動物	<i>Eteone</i> sp.	59
8		ハナオカキゴカイ	15	+
9		ヤマトスピオ	519	0.15
10		イトエラスピオ	207	0.15
11		<i>Rhynchospio</i> sp.	356	0.15
12		<i>Spio</i> sp.	44	0.15
13		<i>Capitella</i> sp.	237	+
14		<i>Mediomastus</i> sp.	178	0.15
15		ツツオフェリア	2,341	3.41
種類数			15	
合計			7,972	72.46

注：「+」がある場合、個体数欄は群体等の出現を、湿重量欄は0.01g未満を示す。

生物調査の結果

団体名	国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所	
調査地点名	St.5、St.10、St.12、St.15、St.18、St.①	
位置座標 (可能であれば)	緯度	St. 5 35°33'37.2"、St.10 35°32'10.2" St.12 35°31'29.4"、St.15 35°31'18.0" St.18 35°31'04.2"、St.① 35°31'42.0"
	経度	St. 5 139°48'11.4"、St.10 139°48'39.0" St.12 139°48'03.0"、St.15 139°48'21.0" St.18 139°48'43.8"、St.① 139°47'30.0"
実施年月日	令和5年8月7日	

【対象生物】

海底に生息する底生生物

【調査結果】

出現種数は2～23種類の範囲であり、St.5、St.15、St.18で最も少なく、St.①で最も多かった。

出現個体数は27～9,660個体/m²の範囲であり、St.15で最も少なく、St.①で最も多かった。

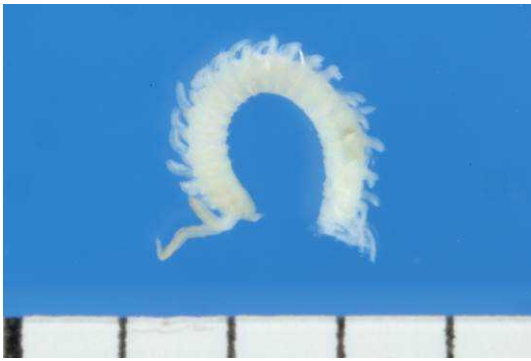
出現種の湿重量は0.01g未満～50.1g/m²の範囲で、St.12、St.15およびSt.18で最も少なく、St.①で最も多かった。

主な出現種は環形動物門のヒゲスピオ、シノブハネエラスピオ、*Pseudopolydora* sp.、イトエラスピオ、軟体動物のアサリ、節足動物のミツオビクーマであった。

表 底生生物の調査結果概要

項目	地点	事業実施区域				沖合	多摩川河口域
	空港北東側	St. 5	St. 10	St. 12	St. 15	St. 18	St. ①
種数 (種/m ²)	環形動物門	2	3	5	2	2	13
	軟体動物門						6
	節足動物門						3
	その他						1
	合計	2	3	5	2	2	23
個体数 (個体/m ²)	環形動物門	727	3,399	67	27	33	7,361
	軟体動物門						573
	節足動物門						1,573
	その他						153
	合計	727	3,399	67	27	33	9,660
湿重量 (g/m ²)	環形動物門	0.4	3.1	+	+	+	5.1
	軟体動物門						43.9
	節足動物門						0.9
	その他						0.2
	合計	0.4	3.1	+	+	+	50.1
個体数による優占種上位5種 (個体/m ² (%)) ※8個体以上のみ記載	シノブハネエラスピオ	667 (91.7)	1,993 (58.6)	27 (40.3)	20 (74.1)	20 (60.6)	3,227 (33.4)
	ハナカキゴカイ	60 (8.3)	1,173 (34.5)	13 (19.4)		13 (39.4)	<i>Pseudopolydora</i> sp. 2,520 (26.1)
			ハナカキゴカイ	<i>Pseudopolydora</i> sp.			ミツオビクーマ 1,507 (15.6)
							<i>Armandia</i> sp. 760 (7.9)
							アサリ 313 (3.2)
備考	空白は、出現種(該当種)がないことを示す。 湿重量の「+」は、0.01g/m ² 未満を示す。						

主な出現種を以下の写真に示す。



環形動物門：ヒゲスピオ



環形動物門：シノブハネエラスピオ



環形動物門：*Pseudopolydora* sp.



環形動物門：イトエラスピオ



軟体動物門：アサリ



節足動物門：ミツオビクーマ

※写真中の1メモリは、1mmを示す。

【調査の様子】

グラブ式採泥器を用いて1地点で底質を3回採取し、0.5mm目のフルイでふるった後に残ったものを試料とした。試料を保存容器に入れて約10%濃度のホルマリンで固定し、分析室にて出現種の同定、個体数の計数、湿重量の測定を行った。



グラブ式採泥器



ふるい状況



底生生物試料

生物調査（干潟以外）のレポート⑥

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
横浜・八景島シーパラダイス	横浜市海の公園	8月2日	魚類

生物調査の結果

団体名	横浜・八景島シーパラダイス		
調査地点名	横浜市海の公園		
位置座標 (可能であれば)	緯度		
	経度		
実施年月日	2023年8月2日		

【実施場所】

南口に近い砂浜の中央付近沖合約100m水深約1.5m

【使用器具】

小型地曳網（使用時開口幅5m）

【実施方法】

アマモ場を目視で確認し25m×3回の曳網を実施

【採集生物】

アオタナゴ	83 mm	1匹
アサヒアナハゼ	88~99 mm	3匹
アミメハギ	23~63 mm	76匹
ウミナメクジ	29 mm	1匹
ウリタエビジャコ	29~32 mm	3匹
オクヨウジ	82~94 mm	2匹
ギマ	7~40 mm	14匹
クサフグ	23~146 mm	17匹
スジハゼ	22~65 mm	6匹
スズキ	160~168 mm	2匹
ツノモハゼ	26~37 mm	4匹
ニクハゼ	30~46 mm	308匹

ヒガンフグ	75～95 mm	4 匹
ヒメイカ	10～20 mm	11 匹
マハゼ	90～118 mm	4 匹
メバル	72～77 mm	3 匹
ヨウジウオ	40～224 mm	26 匹
サザナミフグ	24 mm	1 匹
アオサハギ	79～219 mm	5 匹
ホンベラ	21 mm	1 匹
アイゴ	22～58 mm	20 匹
アカオビシマハゼ	22～33 mm	4 匹
ヒイラギ	19 mm	1 匹

生物調査（干潟以外）のレポート⑦

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
国土交通省関東地方整備局港湾空港部	臨港パーク	8月21日	東京湾に生息する水生生物

生物調査の結果

団体名	関東地方整備局港湾空港部		
調査地点名	臨港パーク		
位置座標 (可能であれば)	緯度	35°27'43.18"	
	経度	139°38'18.17"	
実施年月日	令和5年8月21日		

【対象生物】

東京湾に生息する水生生物

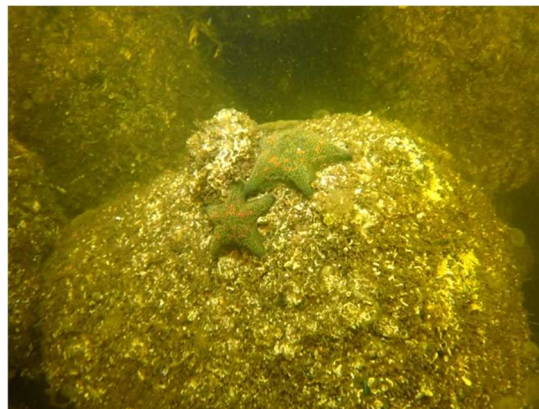
【調査結果概要】

臨港パーク護岸前面では、以下の種が見られました。(表-1 生物調査（干潟以外）臨港パーク確認種一覧参照)

当日の水中透明度が悪かったため、写真が撮影できたものは少ないですが、撮影できたものを以下に掲載します。



Y. P. -4m カンザシゴカイ



Y. P. -4m イトマキヒトデ



Y. P. -4m イシガニ



Y. P. -4m イトマキヒトデ

表-1 生物調査（干潟以外）臨港パーク確認種一覧

種名等		確認環境、水深
植物	緑藻植物	シクサ属 コンクリート護岸 Y. P. +0.5m
	紅藻植物	トクサ属 石積 Y. P. -1.0m
動物	刺胞動物	ヒドロ虫綱 捨石 Y. P. -7m
		イソギンチャク目 砂底、石積 Y. P. -1.0~-7.3m コンクリート護岸 Y. P. 0.0m~-1.0m 捨石 Y. P. -4.0m~-7.0m
		軟体動物
	レイガイ 石積 Y. P. -1.0~-2.0m	
	アカシ 石積 Y. P. -1.0m	
	サルボウガイ 砂底 Y. P. -1.0m 捨石 Y. P. -4.0m	
	ミドリガイ コンクリート護岸 Y. P. +0.0~-2.0m	
	シマノウツボ コンクリート護岸 Y. P. +0.0m	
	イボシ コンクリート護岸 Y. P. +0.5m	
	環形動物	カンザシコカイ科 石積 Y. P. -1.0~-7.3m コンクリート護岸 Y. P. 0.0m~-2.0m 捨石 Y. P. -4.0m~-7.0m
		ミスヒキコカイ科 砂底 Y. P. -1.0m 石積 Y. P. -2.0m~-6.0m 捨石 Y. P. -4.0m
		ミドリガイ 石積 Y. P. -1.0m~-2.0m
		節足動物
	イガニ 石積 Y. P. -2.0m	
	ヤドカリ下目 石積 Y. P. -1.0m	
	苔虫動物	苔虫綱 コンクリート護岸 Y. P. -1.0m
	棘皮動物	イトマキヒトデ 石積 Y. P. -1.0m~-2.0m コンクリート護岸 Y. P. -2.0m
	脊索動物	シロボヤ 石積 Y. P. -1.0m
		メジナ 石積 Y. P. -2.0m
		クロダイ 石積 Y. P. -2.0m
		マハゼ 石積 Y. P. -2.0m
		シマハゼ類 石積 Y. P. -2.0m 捨石 Y. P. -4.0m
		キチヌ 石積 Y. P. -1.0m
マナゴ 周辺遊泳		

【調査の様子】



海草海藻類モニタリング調査



生物モニタリング調査